

CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会
宣教ニュース

N.103 - 2017年7月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



2017年9月24日、総長がヴァルドッコから送り出す第148回宣教派遣は、これまでのどの派遣よりも色彩豊かで、多様性が見られます。世界各地からの21人のサレジオ会員は“前進”のかけ声を待っています。そのうち3人はサレジオ会修道士、18人は司祭と神学生です。この宣教師たちのうち16人は養成中、平均年齢は26.6歳です。最も若い会員は22歳です！そして司祭の一人は61歳です！何と美しいのでしょうか！ドン・ボスコは子どもたちの成長と勇気を見て、笑顔で喜んでいます。派遣先のうちの3か所は特に興味深い所です：2人の実地課程生はドン・チマッティの地、日本へ赴きます；ほかの2人の実地課程生は東ロシア、世界で最も寒い場所の一つ、シベリアのヤクーチアに向かいます；そして別の2人 - 司祭と終生誓願を立てた修道士 - は、マレーシアにおける最初のサレジオ会支部のメンバーになります。サレジオ会が存在する134番目の国です。

どこへでも、いつまでも留まるために、皆出かけて行く準備がととのっています！
これこそ、ドン・ボスコが夢見、創立した聖フランシスコ・サレジオ修道会なのです！

J. Basanes

宣教顧問

ギジェルモ・バサニェス神父

ドン・ボスコと共に……休暇中!

北半球の多くの国で、7月と8月は若者にとって夏休みです。それは、宣教ボランティア活動に取り組むすばらしい機会でもあります。サレジオ会はこの分野で、非常に豊かで多様な経験を持っています。世界各地で多くの若者が、さまざまな使徒職、リーダー、ボランティア、夏季の体験をするために数週間あるいはひと月も時間を過ごします。スロバキアからは、若者がウクライナ、アゼルバイジャン、シベリアへ出かけます；チェコ共和国からはブルガリアへ；スロベニアからアンゴラへ；マルタ、オーストラリアからインドへ；イタリアからはエジプトへ；スペインからモロッコへ；米国からはメキシコへ。

何よりもそれぞれの国内で夏のキャンプなど、最も多様な活動が行われます：イタリアでは「サマー・ボーイズ」、オーストラリアでは「カリエロ・キャンプ」、ブラジルでは「ボスコランディア」。ほかのより宣教的な取り組みもあります。例えば、サン・パウロのGAM(宣教アクション・グループ)の「宣教週間」；ウルグアイのJMS(サレジオ宣教青年会)；コロンビアのGRUMS(宣教グループの会)；コンゴ民主共和国では、「宣教グループ」の活動メンバーが休日に農村部を訪れます；アンゴラでは、100人以上の大学生が宣教を体験するために、国内の忘れられた地域を訪れます。会全体のどこに目を向けても：インド、ベトナム、ナイジェリア、ガーナ、マダガスカル、オーストラリア、アルゼンチン、エクアドル、メキシコ、ベネズエラ……皆、同様の体験を持っています。

では、ボランティアは何をするのでしょうか？状況によって活動はさまざまです。日々のオラトリオ、生活向上のための学び、若者の文化的育成活動など、典型的な活動；聖書勉強会、人権教育、健康・衛生教育、感情・性の教育、グループの司牧；手工芸のワークショップ、演劇、ダンス、音楽、スポーツ、トーナメントなどです。家庭を訪問し、共に祈り、聖書のみ言葉を読み、家を祝福する活動もあります。

これらの活動が宣教地にもたらす実りは大きなものです。しかし、それよりさらに大きいのは、若い“宣教師”たちの心のうちに起こることです。大きな喜びが爆発するかのようにあふれ、その前向きな影響は人生を決定的に変えるのです。私はあるとき、そのような宣教の夏休みを過ごし帰途についた少女からSMSを受け取りました。彼女は裕福な家庭の出身で、アンゴラの30人の学生グループのメンバーでした。学生たちは大変な場所へ行きました。暑く、とても貧しく、蚊がたくさんいてマラリアにさらされ、トイレは無く、地面の上にマットを敷いて寝る……。彼女のメッセージは伝えていました：神父様、本当の幸せが何か、発見できるようにしてくれて、本当にありがとう。」

楽しい宣教の休暇を!



マルタン・ラサルト神父, SDB

「自分が望まれ、温かく迎えられ、共に歩んでもらっていると感じます」



私は第144回宣教派遣(2013年)のメンバーです。私たちはローマとトリノで通常の研修を受けました。ようやく自分が派遣されたフランスの宣教地に着いたとき、共同体の中で自分の場を見出すため、自分がそこにいる意味を見出すため、本物の困難のただ中に放り込まれたかのようでした。自分のサレジオ会召命さえ疑いました。

2016年、プロジェクト・ヨーロッパの宣教師会議がミュンヘンで行われました。ローマでの最初の養成後、このようなプログラムを経験するのは私にとって初めてで、二つの意味で感銘を受けました。

まず、私自身の個人的な計画や望みを越えたプロジェクトに本当に参加している、そのプロジェクトの源は聖霊であると、私は気づきました。このプロジェクトは、熱意をもって主に応えているほかの兄弟会員たちを通して、すでに素晴らしい実を結んでいます。

さらに、私たちを迎える諸管区にとってプロジェクト・ヨーロッパは何か付け足しのもの、あるいは管区計画に並行して存在するものではないということがバヴァリアのミュンヘンで明確になりました。

プロジェクト・ヨーロッパは、私たちが加わる管区の会員たちと“共に”歩むサレジオ・カリスマの刷新なのです。私たちがその兄弟会員たちと一緒に築き上げるプロジェクトです。このことは、私の中にうずいていた、フランスのために十分貢献していないという罪悪感を払拭してくれました。

フランス・ベルギー管区では、プロジェクト・ヨーロッパを強く支持する心の開かれた管区長をいただいているので、私たちは幸いです。管区長の助言はプロジェクトの実施を活気づけています。このことは、私たち海外からの宣教師が管区に溶け込むために大きく良い影響を与えています。私たちは、自分が望まれ、温かく迎えられ、共に歩んでもらっていると感じています。

私自身のことに戻りますが、フランスに着いたとき、現在の管区長が院長、主任司祭をしていた共同体に派遣されました。その後、元副管区長がその任に就きました。私は一步一步、2年をかけて、センターの責任を引き受けその仕事の責任を担うように準備されました。

私はアフリカ人で外国人であるにもかかわらず、主任司祭で共同体の院長だった元副管区長は私にバトンを渡しました。さらに素晴らしいことに、彼は、私がこれらの役職を引き受けてから1年間、次の共同体に移動するまで、副院長、助任司祭としてとどまりました。このことは彼の力の大きいなるあかしであり、私の回心を促すものでした。それは小教区共同体と信徒協働者への力強いあかしにもなりました。彼のこの生き方は、私たちの兄弟愛と私に託してくれた信頼を語って余りあるのです。

コンゴ出身、フランスの宣教師
クリスティアン・チャラウィカ神父



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエルルイジ・カメローニ神父

神の僕ロドルフォ・ルンケンバイン(1939-1976)は1976年7月15日、ボロロ族を守るために人生をささげる選択をしたため、メルリ(ブラジル)のサレジオ・ミッションの中庭で殺されました。宣教師を守ろうとした神の僕シメオン・ボロロ(1937-1976)と共に殺されました。ロドルフォ神父が叙階の時に選んだモットーは、「私は仕えるために、命を与えるために来た」。1974年、ドイツを最後に訪れたとき、神父の母親は気をつけてほしいと懇願しました。息子が負っているリスクについて知らされたためでした。ロドルフォ神父は答えました。「母さん、なぜ心配しているの? 神様のみ旨に仕えるために死ぬこと以上に素晴らしいことはないよ。それは僕にとって夢なんだ。」



サレジオ会の宣教の意向

ヨーロッパのサレジオ会員のために

会の宣教事業である「プロジェクト・ヨーロッパ」が豊かに実を結びますように。

サンチアゴ・デ・コンポステラへの歴史的巡礼(1982年)の際、聖ヨハネ・パウロ二世は述べました。「いにしえよりのヨーロッパよ、愛に満ちた叫びをあなたに向けます: 自らに立ち帰りなさい、自分自身でありなさい! あなたの起源を再発見してください。あなたの源泉を再び生きるものとなってください。」ドン・ボスコのサレジオ会のプロジェクト・ヨーロッパは、この預言的で宣教的な呼びかけが指し示す道を少しずつ前進しています。ヨーロッパのサレジオ会共同体が、サレジオのカリスマの喜びと、兄弟会員が互いに受け入れ合うことにおいて新たにされるために、この歩みが強められ、豊かに実を結ぶものとなるよう、私たちは祈ります。

